

要旨

本論文は、「あおり運転」の現状、調査結果からその要因を理解、考察することで自分自身があおり運転の被害者はもちろん、加害者にならないための運転の仕方について論じていく。

第Ⅰ章では、筆者があおり運転というテーマを選んだきっかけについて論じている。

第Ⅱ章では、あおり運転と見なされる定義(10 類型の違反)について違反件数の中でも多い、車間距離不保持、急ブレーキ禁止違反、安全運転義務違反について論じている。あおり運転の現状については、年々被害件数は増加傾向にあり、警察庁による詳細な調査結果からあおり運転の被害の半数が一方的な勘違いによって発生していたことが分かっている。また、被害者・加害者のそのほとんどが男性であることが判明した。

第Ⅲ章では、あおり運転の要因について、強引な割り込みや急ブレーキ、蛇行運転といった物理的要因とそれとは関係のない日々のストレスや日本人特有の正義感といった心理的要因について論じている。あおり運転においてこのような物理的要因以上に心理的要因が深く関わっていると考える。そして、このような要因から第Ⅱ章で判明した男性が多い理由について考察している。男性は、正義感やプライドといった自尊感情が女性に比べて高い傾向にあり、そのためについ感情的になってしまい、あおり運転には男性が多く関わっていると考えた。運転の際には、男性は女性よりも感情的になりやすいということを実感しつつ、自分なりの感情コントロールの仕方身につけておくことが大切だと考える。

第Ⅳ章では、あおり運転の被害者、加害者にならない運転の仕方について論じていく。煽られない運転の仕方としては、簡潔に言えば他の車両の邪魔にならないことである。道路交通法に従い、どんなに正しい運転をしていた場合でも他の車両の邪魔になってしまえば煽られる可能性があるということである。一方、無意識に煽らない運転の仕方については、「2秒ルール」を用いて車間距離を保つことが大切だと考える。そして、実際にあおり運転の被害に遭遇したときの対処法としては、相手にしない、無視するというのが原則である。しつこく追いかけられた場合には人気のあるコンビニエンスストア、高速自動車国道であればPA・SA に一時避難することが最善策だと考える。状況に応じた対処法を考えておかなければならない。

最終章では、まとめとしてあおり運転に対する考えを論じている。この社会からあおり運転を少しずつ無くしていくためには、運転知識の見直しが重要だと考える。10 類型の違反については、正しい運転知識が備わっていれば防げることが多いはずである。正義感に関しても、今まで自分が正しいと信じていたものが見直してみると間違っていることがあるかもしれない。改めて自分の運転と正しい運転の仕方を比較してみて、それを直していくことであおり運転による事故の減少に繋がるのではないかと考える。